

# 新課程 1期生の志望動向と

# 学習の特徴から見えてくる指導のポイント

ベネッセ教育情報センターは、2024年3月にオンラインセミナー「新課程1期生指導スタート研究会 出願指導編」を開催。大学入試環境の特徴や変化について整理し、2024年進研模試「大学入学共通テスト模試2月」の結果から、新課程1期生の指導のポイントについて考察した。

## 新課程

## 1期生指導のキーワードは心・技・体

### 最新動向や過去の事例から 指導のポイントを考察

いわゆる「新課程1期生入試」となる2025年度大学入試までいよいよ1年を切った。新学習指導要領に対応した大学入試は現行の入試からどのように変わり、そしてどのような指導が求められるのかを明確化するため、ベネッセ教育情報センターは24年3月、オンラインセミナー「新課程1期生指導スタート研究会」を開催した。

同研究会は、出願指導編と教科指導編の2回にわたって行われ、出願指導編で

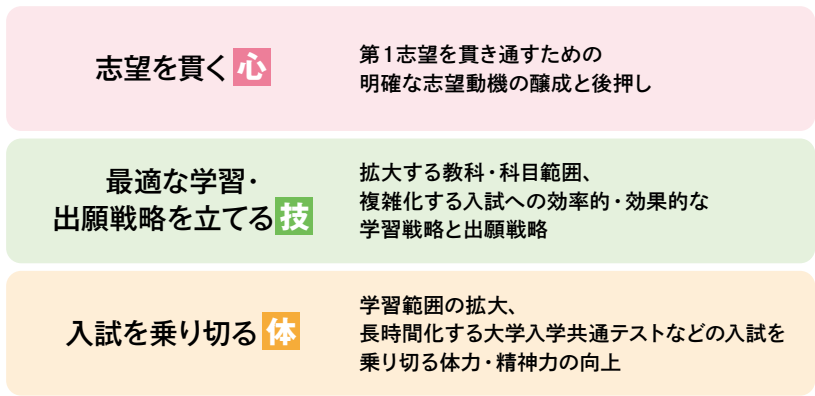
は、近年の大学入試環境の特徴や変化について整理するとともに、24年進研模試「大学入学共通テスト模試2月」の結果から新課程1期生の志望動向と学習の特徴を分析した内容を報告した。また、前回の改訂の学習指導要領に対応した大学入試として初めて実施された15年度大学入試や、1回目の大学入学共通テスト（以下、共通テスト）などの入試の変化期の実践事例を振り返った。そうして、25年度大学入試に臨む新課程1期生への指導のポイントについて考察した。

考察の結果、新課程1期生指導のポイントは、「心・技・体」をキーワードと

して整理された（図1）。まず「心」は、志望を貫く心を指す。大学入試環境が大きく変化の中では、生徒一人ひとりに第1志望を貫き通すための明確な志望動機を醸成することが、これまで以上に求められる。次に「技」は、選抜方法が多様化する中で、生徒自身が志望校合格のための最適な学習スタイルを構築し、出願の戦略を生徒自身が立案できるスキルを指す。そして「体」は、学習範囲が拡大し、共通テストの試験時間が延びる中、生徒が入試本番で最大のパフォーマンスを発揮できる体力・精神力を指している。

次ページからは、大学入試環境の特徴や変化、新課程1期生の志望動向と学習の特徴、そして過去の指導事例から、なぜ「心・技・体」がポイントになるのかを解説していく。

図1 新課程1期生の指導の3つのポイント



# 10 大学入試環境の特徴・変化

## 【情報Ⅰ】の対策をいかに効率的に行うか

25年度大学入学共通テスト（以下、25年度共通テスト）では、国立大学は95%以上の募集単位で「情報Ⅰ」を必須で課す予定となっている。共通テストの合計配点に占める「情報Ⅰ」の配点割合で最も多いのは5%（1000点満点で換算すると50点）で、全体の43%弱の募集単位が5%以下だ（図2）。

「情報Ⅰ」は25年度共通テストから新たに設定される出題科目であるため、各校はその対策を模索しているさなかだが、夏季休業などの長期休業中の補習や、生徒が家庭で自学自習できる教材の準備などを行っている学校が多い。前述の通り、共通テストの合計配点に占める「情報Ⅰ」の配点割合は大きくはないため、いかに効率的に学習していくかがポイントになる。

また、地理歴史・公民では、6つの出題科目より最大2科目を選択するが、「地理総合／歴史総合／公共」の選択を

不可としている大学・学部がある点に注意が必要だ。特に難関国立大学では選択不可としている大学・学部が多い（300募集単位のうち99%が選択不可）。一方で、ブロック大（\*）やそのほかの国公立大学では、「地理総合／歴史総合／公共」の選択が認められる大学・学部が少なくない。さらに、理系の募集単位に限定すると、国立ブロック大で「地理総合／歴史総合／公共」が選択できない大学・学部は一部だ。

「地理総合」「歴史総合」「公共」はいずれも必修科目であるため、受験生にとって『地理総合／歴史総合／公共』は、有効活用することができる受験科目とも言えるだろう。

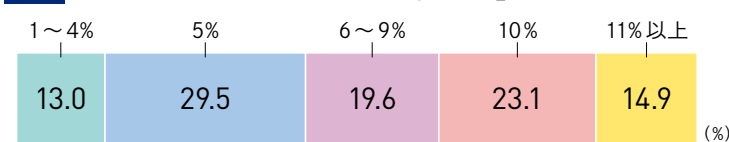
## 【体】試験時間の拡大により、生徒への負担が増加

25年度共通テストでは、国語、数学②の試験時間が現行よりも10分増える。また、情報（試験時間60分）の新設により、6教科受験の生徒については、2日間の

合計の試験時間が現行よりも80分増加することになる（図3）。特に「情報Ⅰ」の試験が実施される2日目は、受験生にとっては体力的にも精神的にも厳しい1日となることが予測される。実際、24年進研模試「大学入学共通テスト模試2月」の実施校の教師からは、「6教科を受験した生徒は疲れ切っていた」「終盤は生徒の集中力が落ちていた」といった声が聞かれた。そのため、「共通テスト

の模擬試験の機会をできるだけ設けて、本番の『実施形式』と『実施時間』に慣れさせる」「授業はもちろん、学校行事においても思考力や読解力を発揮する場面を多く組み込んでいる」「リスニング（1日目最終科目）や『情報Ⅰ』（2日目最終科目）の演習を1日の最後の時間帯に実施することで、ある程度疲れた状態で問題を解くことを経験させている」といった対策が各校で行われている。

図2 共通テストの合計配点に占める「情報Ⅰ」の配点比率



※ 2024年1月下旬時点の大学公表情報を基に編集部で作成。  
 ※ 共通テストの「情報Ⅰ」を必須で課し、該当情報の公表が確認された1,816募集単位（大学・学部・学科・日程・方式）。  
 ※ 情報を「点数化しない」と公表した北海道大、徳島大、「ボーダーライン上でのみ加味」と公表した高知大などの募集単位は集計対象外。

図3 25年度共通テストからの試験時間割（イメージ）

	1日目		2日目
地理歴史 公民	2科目受験 9:30～11:40 1科目受験 10:40～11:40	理科	2科目受験 9:30～11:40 1科目受験 10:40～11:40 理科専門と理科基礎の試験時間を統合
国語	13:00～14:30 現行より試験時間10分増	数学①	13:00～14:10
外国語	15:20～16:40	数学②	15:00～16:10 現行より試験時間10分増
リスニング	17:20～18:20	情報	17:00～18:00 2日目の最後の時間帯で実施

※ 独立行政法人大学入試センター「令和7年度大学入学選抜に係る大学入学共通テストの問題作成の方向性及び試作問題等について」（2022年11月9日）を基に編集部で作成。

\* ブロック大：筑波大、千葉大、横浜国立大、新潟大、金沢大、岡山大、広島大、熊本大、東京都立大、大阪公立大

お勧めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

担任

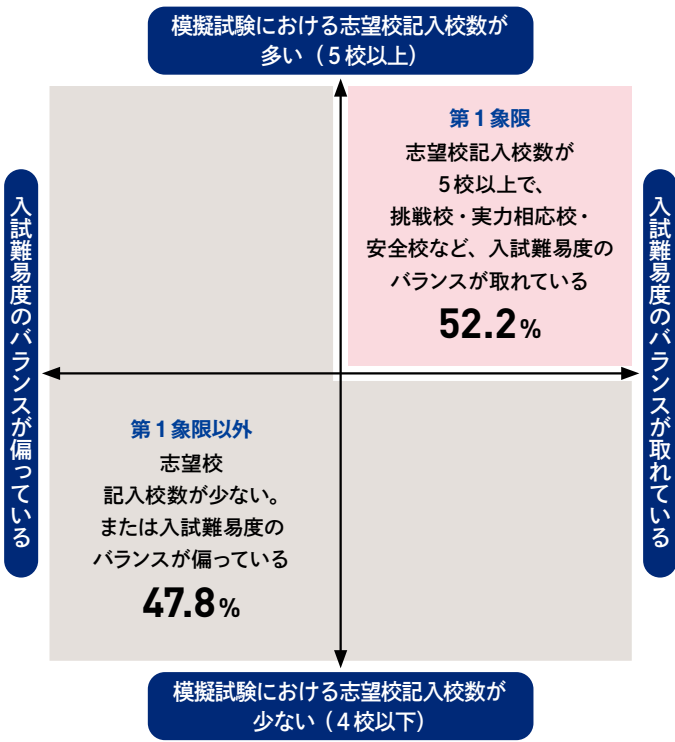
# 新課程1期生の志望動向と学習の特徴

## 心 難関大学を目指す生徒ほど 強気の志望の維持が必要

24年進研模試「大学入学共通テスト模試2月」は、受験者数が25万人を超えた（前年比指数106）。受験者数の増加に伴い、模擬試験実施時点での国公立大学志望者数は前年比指数で108、私立

大学志望者数は前年比指数で105となった。中でも、難関国立大学は前年比指数111、ブロック大が110と高くなってきている。国公立、私立問わず、入試難易度の高い大学群ほど、志望者数が増加する傾向にある。ただ、後述するように、過去の入試の変化期では受験校決定時に国公立大学を敬遠する傾向があっ

図4 模擬試験における志望校記入校数と入試難易度とのバランス



※ 24年進研模試「大学入学共通テスト模試2月」の判定と志望校記入校数の集計結果を基に編集部で作成。  
 ※最大8校記入可能な志望校の判定（ABCDEの5段階）のうち、判定が3種類以上ある場合を「バランスが取れている」として集計。

た。高い目標を掲げている生徒の志望の維持・向上が指導のポイントとなる。

## 技 入試難易度のバランスを考慮した志望校選択を

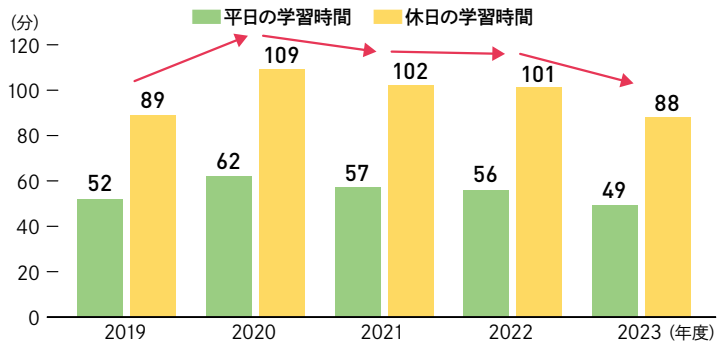
図4は、24年進研模試「大学入学共通テスト模試2月」の合格可能性判定と志望校数を集計した結果をまとめたものだ。生徒は、出願時は共通テストの自己採点後の志望校変更も考慮して、挑戦校、実力相応校、安全校など、入試難易度をバランスよく検討しておくことが重要となるが、模擬試験が実施された2年次3学期の時点では、十分に検討できている生徒は半数程度にとどまっている。

特に、志望校の記入校数が4校以下の生徒の割合は20%以上となっており、その現状は看過できないものだ。入試難易度のバランスを考慮した併願パターンが組めるよう、大学・学部・学科研究にしっかりと取り組むことが重要となる。

## 体 学習内容の増加に見合う学習時間の確保が必要

現行の学習指導要領では学習内容は増加したが、生徒の学習時間は全体とし

図5 学習時間の過年度比較



\*各年度のスタディーサポート2年生第1回の全国集計値を基に編集部で作成。  
 \*年度によってばらつきはあるが、おおよそ45万人のデータを集計。

ては増加していないようだ(図5)。新型コロナウイルスの感染拡大によって臨時休業となる学校が増えた20年度は、一時的に生徒の学習時間が増加したが、学校生活も日常を取り戻しつつある。今、生徒の学習時間は増えていない。入試本番までの限られた時間の中で、強気の志望の維持を下支えする学力を養うためにも、学習習慣の充実が求められると言えるだろう。

# 過去の事例に見る指導のポイント

**心** 易きに流れず、  
志望を貫く意志を育む

今回のオンラインセミナーでは、過去の入試の変化期の特徴と、その変化を乗り越えて生徒の希望進路の実現を後押しした高校の事例も紹介した。

13年度から15年度にかけて（先行実施を含む前回の新課程入試）の大学志願者数の推移を見ると、国公立大学の志願者数は減少している。また、共通テストが導入された21年度入試では、前年比で国公立大学及び私立大学の志願者数は減少している。入試の変化期においては、出願校の決定時に特に国公立大学を敬遠する傾向が見られるため、志望を貫く強い意志を育てることが重要だ。

前回の新課程入試で、「目標を高く持たせる進路指導」に学校全体で取り組んだ公立A高校では、出願校に対する生徒の納得度を上げるため、3年次の3学期を迎えるまでに複数回、出願のシミュレーションを行い、生徒だけではなく、保護者も巻き込んで、納得感の高い出願

校の決定を指導したという。

**技** 生徒の現状を把握し、  
課題を明確化する

公立B高校では、15年度入試において、教科担当の教師が生徒と面談を行い、学習方法についてアドバイスをした。生徒が立案した学習計画を基に担任が面談を行い、夏季休業中の学習を細かく確認したりするなど、生徒の学力や学習習慣などを詳細に把握し、課題に応じた指導を成績層別に行うことで成果を上げた。

そのように、入試の変化期においては、「生徒の現状把握」「進路の納得感の向上」「すべきことの明確化」がポイントとなるようだ。

\*  
本コーナーでは出願指導編の内容を紹介したが、教科指導をテーマとしたオンラインセミナー（下図）も開催した。いずれもアーカイブ動画を公開しているのでご覧いただきたい。

## 新課程1期生指導スタート研究会 教科指導編サマリー

教科	大学入学共通テスト試作問題の主な特徴	大学入学共通テスト模試 2月結果より	指導のポイント
国語	■生徒の言語活動の場面が設定されており、文章・図表・グラフが複数提示され、それぞれを解釈する力や関連づけて考察する力が求められた。	■図や表などを含めた、様々な種類のテキストの読解と、複数のテキストを関連づける思考力が求められた。	■図や表などを含めた複数のテキストを用いた問題演習。
数学	■数学②の『数学Ⅱ、数学B、数学C』の選択問題については、「数学B」「数学C」の4項目から3項目の問題を選択解答。	■問題文などから必要な情報を読み取り、図示をしながら数学の問題に落とし込む力が求められた。	■問題文から読み取った情報を、図示などしながら整理する。
地理 歴史、 公民	■主題を設定して生徒が調べた内容をまとめる場面や、授業中に生徒同士で意見を出し合って考察する場面が扱われるなど、「探究活動」や「授業」を意識した出題が多く見られた。	■生徒が調べ、まとめたプリント、探した図版、それらをまとめた資料などを踏まえ、論理的に考察する力が求められた。	■題意（テーマ、課題）の的確な理解と、場面に応じた情報活用能力、大局的視点を身につけさせる。
情報	■モデル化とシミュレーション、論理回路など、以前のサンプル問題（2021年3月24日公表）では見られなかった分野からも広く出題された。	■プログラミングは基本事項や基本構造の理解、プログラムの考察が求められ、得点に大きく差がつく結果となった。	■情報で扱う内容を自分ごととして捉え、積極的に学ぶ姿勢を育む。

◎新課程1期生指導スタート研究会のアーカイブ動画（出願指導編・教科指導編）は  
こちらからご覧いただけます。

[https://bhsobenesse.ne.jp/hs\\_online/sidou/shinkatei/article/20240401\\_sidoustart/index.html](https://bhsobenesse.ne.jp/hs_online/sidou/shinkatei/article/20240401_sidoustart/index.html)

お勧めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

担任